早稲田大学社会科学部
学部生・卒業生・教職員を繋ぐ
Communication Magazine

社学稲門会

WEB発行第4号

題字：第3代学部長・故木村時夫名誉教授

No.19

「社学二水会」会報
通巻19号

巻頭言
社学創設50周年を迎えて世界の早稲田、世界の社学へ！
社学稲門会会長／阿川　功 …… 2

社学稲門会報告
学部創設50周年記念イベントのご案内 …… 4

第４回社学稲門会総会レポート
「学部・卒業生・在校生」三位一体の結束を！ …… 6

社学稲門会「第６回経営者の会」活動報告
国内外で活躍する社学卒業生とともに現役学生の支援を！ …… 8

「社ガールの会」活動報告
社ガールと早稲田と私／山野千鶴子 …… 10

寄稿・紆余曲折
骨董、アンティーク、レトロの
素晴らしさを伝えたくて…／鈴木 淳 …… 12

新社会人です！
大学時代に得た縁を大切にして／森下　俊 …… 14
どこでも存在する早稲田のつながり／三浦誉生 …… 16

「稲門会」報告
「繋がる奨学金募金」のお願い …… 18
早稲田大学社会科学部卒業生奨学基金の詳細 …… 19

編集後記 …… 20

Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again! Come & join us again!

社学稲門会会長
阿川　功

社学創設50周年を迎えて、世界の早稲田、世界の社学へ！

●社学創設50周年イヤー、10月22日、23日には早稲田の杜に参集を

社学稲門会の皆様、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

1966年創設のわが社会科学部は、本年50周年を迎えました。嬉しいことにこの50年、社学は大きく成長し、沢山の有為な人材を世に出してきました。

本年10月22日、23日の土日には、社学創設50周年の記念イベントが大学で開催されます（イベントの概要は社学稲門会のホームページの50周年特別サイトをご覧下さい）。

皆様、是非、社学の旧友にお声をかけていただき、懐かしい早稲田の杜にご参集願います。

社学稲門会では、昨年10月の稲門祭以降を「50周年イヤー」と位置づけ、50周年イベントの準備と「社会科学部卒業生奨学基金」の充実を目指して活動してまいりました。

50周年記念委員会では、佐藤委員長を中心に「社学　いま・むかし、そして未来へ！」をテーマに、事業委員会（夏越委員長）、広報委員会（伏見委員長）等と共働し、10月23日の記念式典（学部主催）を中心に、当日の懇親会の準備を進めています。

前日22日もキャンパスツアー、田村正勝先生の「社会科学方法論」の特別講義、そして社学出身の著名人による「わたしと社学――次世代への提言」と題するシンポジュームの準備をしております。

●社学の次の50年の発展のため「社会科学部卒業生奨学基金」の充実を

社学1期生がホームカミングデーを迎えた1995年から始まった「社会科学部卒業生奨学基金」は、現在基金総額約7000万円となり、毎年4人の学生に各40万円を給付しております。

この基金を8000万円にしようと、奨学金委員会（川尻委員長）は奮闘しております。

毎年200万円～400万円ずつ増額を続けている基金を、今年度は単年で1000万円の増をはかろうというのですから、相当努力し卒業生の皆様のお力をお借りしなければなりませ

ん。

現在基金の運用利率は２％です。8000 万円の基金になれば、運用益は 160 万円となり、基金の利息だけで現在の４人の奨学金をまかなえます（現在は毎年の寄付額の中から不足額を充填しています）。

更に基金が増えれば、奨学生の数も奨学金額も増やせるのは勿論、現在の「学業成績が優秀で経済的に恵まれない学生」という選考基準のほか、多様な選考基準のもとに、社学から広範な領域における有為な人材を輩出する大きな力となることでしょう。

社学創設 50 周年という記念すべき年に巡り合わせた幸せをかみしめ、社学の次の 50 年の発展を願い、皆様の「社学卒業生奨学基金」への強力なご支援をお願いする次第であります。

●大きな構想を具体化できる有為の人材の排出を期待して

50 周年式典においでいただければ実感していただけると思いますが、社会科学の学際化、総合化を目指して発足したわが社会科学部は、その目的を如何なく発揮し、今や政治経済学部と並ぶ早稲田の看板学部となっております。

これからも急速に進むグローバル化の中で、学際的、臨床的な学部を目指し、単なるペーパーエリートではなく、現実を見据え未来を展望する中で大きな構想を具体化できる人材の輩出が期待できます。

50 年後、創設 100 周年の社学が、そのような存在として世界の早稲田、世界の社学となることを願い、社学発展の基礎を固めるべく皆様の例年にも増したお力添えをお願いする次第であります。

まだ暑さは続きそうです。皆様、呉々もご自愛のうえ、10 月 22 日、23 日には早稲田の杜でお会いできることを楽しみにしております。

再び早稲田の杜に集まろう！

学部創設50周年記念イベントへのご招待と合同クラス会のご案内

10月22日（土）学部創設記念イベントへのご招待

社会科学部は 2016 年で学部創設 50 周年を迎えました。社会科学部稲門会では 50 周年記念イベントを井深記念ホールにて開催致します。参加は全て無料です。

◇特別キャンパスツアー［早稲田の、社学の、今と昔を歩く］

懐かしのスポット、大きく変貌した新スポットを巡る特別ツアー
（10：30 ～ 12：00）
※事前申込み制 9 月より HP にて受け付け開始

◇特別講義［社会科学方法論］田村正勝名誉教授

難波田春夫名誉教授、田村正勝名誉教授と受け継がれてきた「社会科学方法論」が 1 日限り蘇ります。
（13:00 ～ 14:30）

◇学部創設50周年記念シンポジウム［わたしと社学、次世代への提言］

ジャーナリストの津田大介氏をコーディネーターとして、九州大学大学院教授の永田晃也氏、メルセデス・ベンツ日本の代表取締役社長兼 CEO・上野金太郎氏、女優の筒井真理子氏をゲストに迎えます。
（15:00 ～ 17:00）

◇フィナーレ

早稲田大学応援部のリードで校歌をゲスト、来場者一体となり歌い上げます！

10月23日（日）合同クラス会のご案内

ホームカミグデーの当日、旧友や恩師が集う社会科学部合同クラス会を 18 号館（旧安部球場跡）で開催いたします。

久々に早稲田大学に足を運ぶ、卒後 45 年（昭和 47 年卒）、卒後 35 年（昭和 57 年卒）、卒後 25 年（平成 4 年）、卒後 15 年（平成 14 年）の皆様を温かくお迎えするのは皆様と同期のスタッフ及び社会科学部稲門会の仲間たちです。

SNS の普及により、音信の取れなくなった友人を探すことは格段にやさしくなりました。ホームカミングデーはまたと無い機会です。ご学友を探してみて下さい。合同クラス会への参加を呼び掛けてみて下さい。遠方の友人と久々に旧交を温めて下さい。合同クラス会はご家族の参加も歓迎致します。当日飛び入り参加も可能ですが料理等の準備もございます。

当該年次の方にご案内の出欠はがきでの返信、または 50 周年記念イベント特設サイトにアクセスしてお申し込み下さい。

旧友との再会、世代を超えた社学の仲間と語らい、今年は社学 OB の著名なゲストもお招きする予定です。至福の時をお過ごし下さい。（会費：5,000 円）

今年度の開催は学部主催の「社会科学部創設 50 周年記念式典」と合わせて行われます。

第一部　14:00～15:30

学部主催記念式典（例年合同クラス会で行う「社会科学部卒業生奨学金授与式」は記念式典で行われます）

第二部　16:00～17:30

学部側と合同で懇親会を開催

皆様との良い出会いを楽しみにしております。

社会科学部稲門会
2016 年度合同クラス会実行委員

第23回社会科学部合同クラス会の詳細

●日　時／10月23日（日）
14：00～17：30（受付13：30から）
●会　場／早稲田大学18号館（井深記念ホール）
●会　費／5,000円（ご家族同伴の場合は別途1,000円頂きます）
●式次第

〈第一部「社会科学部創設50周年記念式典」14：00～15：30〉

1　開会
2　総長、学術院長挨拶
3　50年間を振り返る
4　各種表彰
5　稲門会会長挨拶
6　奨学金証授与
7　校歌斉唱

〈第二部　16：00～17：30〉（国際会議場会議室）

8　乾杯・歓談
9　記念撮影
1972年（昭和47年）卒
1982年（昭和57年）卒
1992年（平成4年）卒
2002年（平成14年）卒

10　合同クラス会学年幹事・ゲスト記念スピーチ
11　校歌・応援歌斉唱
12　閉会〈17：30終了予定〉

学部創設50周年記念イベント＆合同クラス会、会場案内図

◆早稲田大学18号館（旧安部球場）、井深記念ホール、国際会議場会議室

第４回社学稲門会総会レポート

「学部・卒業生・在校生」三位一体の結束を！

●「学部稲門会」のモデルとして

2016年5月14日（土）、小野梓記念講堂にて社会科学部稲門会第四回総会が開催されました。大学側からは、畑惠子早大理事、西原博史社会科学総合学術院長、照屋佳男名誉教授、梅原竜司校友会事務局長、斉藤鉄生事務長にご臨席いただきました。社学稲門会阿川会長のご挨拶の後、ご来賓の方々からは「学部稲門会のモデルとして、社学OBの方々には益々頑張ってほしい」と激励のお言葉をいただきました。

稲門会側の社学創設50周年記念事業実行委員会・佐藤和美委員長から、今秋のホームカミングデー前日の10月22日（土）に開催されるイベントについての内容や意義の説明があり、学部・学生・卒業生の「三位一体」になって記念すべき年を祝おうと呼びかけがありました。その後、各委員会からの活動報告と活動計画の説明があり、第一部終了。

●3人のレジェンドが語る早稲田スポーツ

第二部は『3人のレジェンドが語る　早稲田スポーツ』と題し社学OBのトークショーを開催しました。1971年卒業のサッカー部OB松永章さん、1972年卒業の野球部OB望月博さん、1990年卒業のラグビー部OB後藤禎和さんにご登壇いただき、1998年卒業のジャーナリスト津田大介さんと現役の4年生緒方桃子さんに司会進行をお願いしました。それぞれ現役時代の所属部の思い出や何故早稲田を目指したのか、社学での学業についてなどお聞きしました。また「学生時代に何か一つのことに真剣に取り組むことによって将来ブレない軸を作ってほしい」など今の学生に対する熱いメッセージをいただきました。レジェンドの飾らない発言を受けて司会の津田さんからも「それぞれの個性と多様性を発揮しながらも仲間としてまとまれる学部が社学ではないか」という感想をいただきました。

●恒例の懇親会も大盛況で

総会を終え、例年通り大隈講堂前での記念撮影後、大隈タワーのレストラン「森の風」（旧・西北の風）に会場を移し、懇親会を開催しました。冒頭、来賓の代表として、畑惠子早大理事から社学50周年への様々な取組みや当稲門会への期待を込められた祝辞をいただきました。

懇親会には「スポーツトークイベント」に出演された早稲田スポーツのレジェンドである松永章氏、望月博氏、後藤禎和氏と司会の津田大介氏も参加され、なかなかお聞きできない数々のオフレコの話題で歓談は

社学OBによるトークショー

司会進行役の津田大介さんとともに

荒井広幸さん

宮崎華蓮さん

照屋佳男名誉教授

大いに盛り上がりました。また、各分野で活躍されている多数の校友も駆け付け、政治家の荒井広幸氏や現役生で女優の宮崎華蓮さんにも近況を語っていただき、世代を越えた校友同志の交流を深める場となりました。

名残惜しい時間もあっと言う間に過ぎ、会の締めは応援部リーダーの OB と現役による指揮のもと、肩を組んで「紺碧の空」「早稲田の栄光」「校歌」を現役チア共々全員で熱唱。最後に御年 80 歳の照屋佳男名誉教授に参加者全員が活力をいただくスピーチを頂戴し、和やかに散会となりました。

今回の懇親会は当稲門会が学部、校友、学生の三位一体であることをあらためて認識させ、現役生を含めた学部稲門会ならではの一体感が醸し出された様に感じます。今後、10 月の稲門祭に向けて社学 50 周年記念行事の活動が加速化しますが、皆様にはさらなるご支援ご協力をいただきたく何卒宜しくお願い申し上げます。

【文責：広報委員会】

締めの校歌斉唱

このひとときが忘れられずに

社学稲門会「第６回経営者の会」活動報告

国内外で活躍する社学卒業生とともに現役学生の支援を！

●現役学生支援と卒業生間の絆を深めるために

東京専門学校創設から 134 年。そして、社会科学部は今年で創設 50 周年を迎えます。この間、早稲田校友の国内外、そして様々な分野での活躍は周知の通りです。

我が社会科学部も 1966 年（何とあのビートルズ来日の年）の創設後、卒業生の皆様が、幾多の荒波、様々な試練を乗り越え、上場企業の代表取締役や取締役として活躍される方々や早稲田らしく、社学らしく、進取の精神を以って、自ら起業され、今では相当数の従業員を抱える企業の創業者・経営者が多数いらっしゃいます。

国内に留まらず、海外市場でも現地法人を設立され､経営されている OB･OG など様々な分野で、様々なご活躍をされています。

また大学で教鞭をとり、研究の道に邁進される社学出身の大学教授は、その数全国で 200 名を超すと言われていますし、国会議員として活躍される社学 OB もいます。

『経営者の会』は、奨学金委員会が中心となり、このような方々が一同に会する場として企画されました。学生・教職員・卒業生が三位一体となっての社学稲門会の目的・活動を理解・共有することによって、現役学生への支援と卒業生間の絆をより一層深めるというのがこの会の趣旨です。

●7月20日､第６回目を5名の初参加者を得て開催

早いもので、昨年４月の第１回目から今回は第６回目となりました。

梅雨も明けたかと思わせる天候の中、７月 20 日（水）19：00 に今や昔の面影の欠片もない近代的校舎となった 14 号館 801 教室に５名の初参加を含む計 18 名の方々と社学稲門会会長、幹事長、50 周年記念実行委員長、奨学金委員会の各メンバー、学部からも事務長などが参加され、第六回目の会が開催されました。

石田奨学金委員（応援部 OB）の MC のもと、阿川会長（第１期卒業生）のご挨拶では、「第１期卒業生が卒業 25 年目のホームカミングデーに集まった折に、後輩の現役学生のために奨学金制度をつくろうという相談がまとまり、趣旨に賛同された卒業生はもちろん教職員や一般の方々からも奨学金の寄付をいただき現在の“卒業生奨学基金”がスタートしました。

これが現在の社学稲門会のルーツであり、毎年４名、１人 40 万円、計 160 万円の給付を目標に運用を図っています。

しかし昨今の低金利ではなかなか目標給付額の達成が困難です。現在の残高が約 7000 万円で、２％の運用をしているものの、160 万円の給付には若干不足しまいます。

学部創設 50 周年を機に、＋ 1000 万円の寄付金を目標にして 8000 万円へのチャレンジし、現役学生への安定した奨学金給付を確保したいと考えています。

この趣旨に賛同いただき、「一層の協力をお願いします」とのご挨拶がありました。

●“卒業生奨学基金”の重要性を再確認して

また、このような活動を背景に 1400 を越えると言われる稲門会の中でも早稲田大学、及び校友会からは高い評価を得ている稲門会のひとつである事も紹介されました。

当日は、実際に奨学金を給付され、現在では奨学金大使として募金・寄付金集めに貢献されている現役学生３名からも､給付された奨学金の用途、給付される学生にとって如何に貴重な奨学金であるかなど学生の生の声が披露されました。

また、佐藤和美 50 周年記念実行委員長からは本年 10 月 22 日（土）23 日（日：稲門際）に予定されているイベントの目的や内容についての概要を説明されました。23 日には奨学金を給付される学生への贈呈式が予定されています。

●第2部では現役学生を含め懇親を含めて

続いて初参加の方を中心に自己紹介が行われた後に、川尻奨学金委員長から今後の益々の協力依頼と、より実効性をもたせる為の寄付者氏名や、残高の公開など現在検討されているアイデアが紹介された後、社会科学部卒業生奨学基金払込票が配布され、皆様での記念撮影を最後に第１部が終了。

第２部は会場を学外に移し、伊東幹事長の乾杯の発声から懇親の場となり、現役学生も含め、近況についての話題やビジネスの事、学生時代の想い出話など、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

最後は、川尻委員長の「人生劇場」、そして、応援部 OB 石田委員の指揮による早稲田大学校歌斉唱でお開きとなりました。

現役学生の中には、「人生劇場」を知らない学生もいて、伝統継承のいい機会にもなったようです。

こうして第６回目となる社学稲門会『経営者の会』も終わりとなりましたが、現役学生への安定した奨学金給付のために、より一層の寄付金・募金が期待されます。　【文責：広報委員会】

社ガールと早稲田と私

山野千鶴子（1984年卒）

●楽しいガールズトーク炸裂の「社ガールの会」

早稲田大学社会科学部のガールズの会 『社ガールの会』を、6月23日に立ち上げの時と同じ恵比寿のおしゃれなレストラン『ら.ぴえにゅ』にて開きました。

お店は私達を歓迎するがの如く壁一面が我らが学部カラーのオレンジに埋め尽くされていました。

その日、丁度お誕生日でしたEさんには、サプライズのバースデーケーキで“Happy Birthday”。

お食事もほーんと美味しくてさすが恵比寿！「社ガール」旗とともに写真撮影をし、楽しいガールズトーク炸裂でした。

初めましての人も、長年の付き合いの人もあっという間にみんな打ち解けてしまうのは早稲田だから？社ガールだから？

みんな飾らない感じで、自分も飾らなくて良いのが心地よいのかも。

特に、この学部は早稲田大好き人の集まりですから。

社ガールメンバーも徐々に増え、平均年齢もぐっと下がってきているこの頃。

次回社ガールの会も決まり、楽しい仲間のリクルートも進んでいます。

●学生時代はハードなESSで活動

私はと言いますと、東京出身で親戚にとても早稲田が多かったのと、大好きだった祖父が特に早稲田が好きだったので、高校時代から野球の早慶戦や、ラグビー部の練習を見に菅平や東伏見に通っていました、ということで受験ももちろん早稲田大学だけ6学部。

入学後は、早稲田大学英語会に入会。このESSは、大隈重信公がポケットマネーで英語の勉学をするようにと言われたのが始まりと聞いている由緒あるサークルというか、ほぼ体育会系並みのハードなクラブでした。200名ほどのメンバーで、スピーチ、ディスカッション、ディベート、ドラマの活動があり、3年の時は夏合宿委員長をやりました。

あの時は、もちろん携帯電話もインターネットもポケベルもなく、コピーも高かったので必要資料やレジュメはガリ版刷りだったのが懐かしいです。

毎年四大ドラマ・コンテスト（早稲田、慶応、立教、一橋＆津田）があり、その時パフォーマンスした『WEST SIDE STORY』が、今の趣味でもありますミュージカルを作り上げることに繋がっています。

ダンスのダの字も知らないメンバーにダンスを教えた？　今考えると若さ故の怖いもの知らずだったと思います。

振付のコピーも、あの頃出たてのビデオデッキのある仲間の家でやったり、振付け損ねて床に落ちて顎を4針も縫ったり（傷は目立たないから今は大丈夫）etc.

今では、その他の趣味も仕事も、子育てがひと段落した7～8年前に始めた物も多く、アルゼンチンタンゴや、居合道、スペイン語、ヒンディー語等々。

●英語クラスの担任・照屋先生と再会できて…

そして数年前から参加させてもらってます早稲田大学稲門会は、早稲田大好きの私にとって、早稲田に関われることでとても嬉しい限りです。社会科学部稲門会、1984年次会、早稲田女子会、千代田区稲門会、ビジネスネット横浜稲門会、そして社ガールの会に顔を出しています。

大学の英語のクラスの担任が社会科学部の総会にもいらっしゃってる照屋佳男先生でした。クラスの女子6人で『よっちゃんの会』（別名女ヤクザの会）を作って、卒業後も長くお付き合いさせていただいています。

ちなみに、先生には私の結婚式の代表挨拶もしていただきました。

ゼミにもほとんど出ずにESSの活動を毎日してい

レストラン『ら．ぴえにゅ』の料理に舌鼓

平均年齢もぐっと下がってきて…

た私は、授業の時間とほぼ被るために　照屋先生の英語の授業以外は、欠席か睡眠時間となってました。

しかし、クラスの女子とは未だに仲が良く、稲門会にも誘ってもらえたことで、また先生と話す機会も増えてとても嬉しいです。

照屋先生と出逢えたことは、私を始め多くの学生の心の宝物になっていると思います。

1年ほど前に先生にお会いした時に、毎朝木刀で素振りを1000回されるとのことでしたが、今は平均2000本だそうです。

正座をして4～5時間読書をされるのも普通で、今はギリシャ語を学ばれていて、とにかく今が一番脳も体もお元気とのこと。

また、社会科学部稲門会の総会での、メッセージも毎回印象的です。

今年は、“根があってこそ花は、咲く。花ばかり見るのでなく地に根を張る努力が大切である”と。

“花？は、花は花は咲く？”の曲がお好きではないとのこと。

私もきっとこの曲を聴くたびに照屋先生の言葉をずーっと思い出し続けると思います。

お会いするたびに元気をいただき、早稲田魂を誰よりも強く感じさせて頂いています。感謝です。

●娘たちには世界が好きになるように…

早稲田好きの私なのに娘達は他の道を選びました。

長女は高校、大学とカナダに行き、日本で就職した後、今は念願のメキシコ勤務でメキシカンとの間に可愛いというより、かなり自己主張の強い1歳半の娘がいます。

次女はアメリカの大学を出て、今は勤めて（？）ます。かなり自由人なので……。

三女は台湾の大学に4年通って、今は日本と台湾で就活中です。

私は語学は好きでしたが留学経験もなく、主人は英語が話せないため、もちろん海外赴任もありませんでしたが、密かに子育てでは、世界が好きになるように少しずつ作戦を実行してました。

作戦内容に興味のある方は個人的にお話しますのでいつでもどうぞ。そんなに秘密でもないですが……。

●早稲田の若手を元気づけられるように…

『明日､何が起こるかわからないからやりたいことは、やってしまおう』が私の常のスタンスです。

今後は先はまだわかりませんが、海外に自由に滞在して世界に散らばってる友達や今の仲間たちや家族といろいろなことに挑戦してみたいと思います。

例えば、海外にあるオープンカフェで人々の日常を味わったり、NYタイムズスクエアでのカウントダウン、ブエノスアイレスでタンゴ留学、スカイダイビング、ニュージーランドで牧場経営、要するにきりがないです。

もう一つは、社学を始め早稲田大学に毎年寄付がたくさんできたらとても嬉しいです。そして、早稲田の若手をもっともっと今以上に元気付けられることの手伝いをしたいと思います。

今後ともよろしくお付き合いお願いいたします。

寄稿 紆余曲折 人生いろいろ…社学もさまざま

骨董、アンティーク、レトロの素晴らしさを伝えたくて…

鈴木　淳（1984年卒）

出店中の骨董市にて校友と、左が筆者

●卒業後、アルバイト生活を経て学習塾を

千葉県で骨董屋を営んでいます79年入学、84年卒業の鈴木淳と申します。社会科学部も創設50年を迎え喜びに堪えません。寄稿依頼に際し恥を忍んで駄文を寄せさせて頂きます。

また、併せてお世話になりました先生、先輩、友人諸氏に重ねた不義理をお詫び申し上げます。

さて、小生社学入学当時、先輩の下宿部屋には北一輝、高橋和巳等の著者が書棚を占めて熱い先輩の話にただ相槌を打つのみでした。小生ほか同期の下宿には『POPEYE』、『Hotdog Press』などの雑誌のバックナンバーが本棚の大半を占有していました。

田崎先生には「ゼミ出席は不要、先ずは5年目の学費、生活費のためバイトを」との温かいお言葉をいい事にアルバイトに明け暮れる日々を送り、たまの本キャンでは久し振りの友人との再会に喫茶店直行の中、山之内光躬先生の「財政学」、長島先生の「中小企業発展論」だけは教室前列で受講しました。

友人の社学人への旅立ちに遅れた小生は、就職活動とは如何にするものかも分からないままに、長野県で5年目の春から早霜の頃までアルバイトに明け暮れる毎日、そして損保会社の代理店研修生の募集広告に応募し、故郷に戻りました。

帰郷後、待ち受けていたのは地元大手炭鉱の閉山、かつての四分の一にまでの人口減少でした。その様なヤマの町で家庭教師の依頼を受け、発展的に学習塾を開き大手予備校の札幌分校での講師も兼ね、札幌での生活にシフトしました。

●いきなり骨董屋を始め、今では生きがいに…

ある年、同業の先生の過労死が重なり熟慮の末、古物許可証を取得、在学中から好きだった骨董屋をいきなり始めました。しかしある分野では突出したセンスがある札幌ですが、どうしても経験できない分野を勉強したく北陸へ何の伝手もないまま修行に渡りました。

北陸では買い出し先、同業者等多くの方に恵まれ骨董屋として独り立ちの足掛かりができました。その後販路を求め関東に移った今でも、北陸の買い出し先様と疎遠にならない様努めています。

前述の様な生活の変化には何時も非常に困難な状況が伴いました。骨董屋だけでは立ち行かずアルバイトをしながら、時には言葉で表現が困難な事もありましたが、この様な苦境でも大好きな骨董屋を現在まで営んでいられるのも早稲田と社学の誇りを持ち続けたからだと思います。

北陸のとある県立博物館に優先納入、アドバイザー、鑑定者としてもご協力させて頂き、お世話になった地域のお役に立てた事がこの商売を選んだ中で大きな思

い出となりました。

骨董、アンティークは日常の暮らしの中ではそれが無かろうと全く困らない物ですが、その一品が価値をお認め下さる方、中にはその道の大家と称されるコレクターさんもいらっしゃいますので、日々の精進は欠かせませんが、その様な方々の元へと品物が旅立つ時ほど喜びを感じる事はありません。

また、買い出しでは死体第一発見者、被災者様のご依頼など他の骨董屋がした事のない様な経験もしました。そしていつの間にか蔵の中を見渡すだけで、かつて別の骨董屋がいつ頃に入ったのかが分かる様になり、タンスは引き出しの中からのインスピレーションを感じる事もあります。この様な品物が時代に埋もれ最後は廃棄されるのを一つでも多く世に出せれば、またこれまで全く評価されなかった物に光を当てる事が出来ればとの思いで骨董屋を続けています。

この様な仕入れ買い出し、販売では信用が第一、いつの間にか本当の意味での「無理をしない」「見栄をはらない」「正直である」事が身につきモットーとなりました。

これから先、仕事ができなくなるまで骨董屋を続けていく事になりますが、同じ古物商でもリサイクルショップなどと異なり企業化しにくい目利きの問題があります。志を同じくする同業者とのジョイント、かつての古銭や切手収集の辿ったコレクター、ファンの減少を食い止め、若い人にもご提案出来る分野の開拓も必要です。

北陸時代、年間10名ほどの中高年の方の骨董屋志願がありました。多くの方がリストラ、リタイアの不安の中での志願でしたが買い出し、古物市場、販売への同行指導の中、独立開業された方は2名です。先ずは「誰にも負けない目の利く分野を三つ持つ」事が出来ず断念された方が多く、今後は後進の骨董屋志望の若い方々の育成、そして仲間の骨董屋と共に「骨董、アンティーク、レトロ」の魅力を伝えて行く事にも本格的に取り組まなければと考えています。

●躓いたときでも社学の凄さ、社学魂で…

最後に社学稲門会に参加させて頂き、まず田舎暮らしが長かった小生が驚いたのは、会員皆さんが社会の第一線でご活躍されていらっしゃる方ばかりである事で、小生の様な者が異物として参加して良いのかと不安でありました。

5月の総会後の懇親会にて

しかしながら、浮いた存在ではあろうとも何時も温かく接して下さる会長、幹事長、幹事、会員の皆さんに心よりお礼申し上げます。

毎度素晴らしいエネルギーを注入頂きありがとうございます。

社学の社会的評価は暗闇の中を出港した船に乗り込む気概で入学された第一期生の先輩、それに続いた諸先輩、更に続く卒業生の皆さんの努力が大きな力となって勝ち得たのも進取の精神、すなわち社学魂の賜物である事は異論を挟む物ではないと確信しています。

この意味では大学の期待通りの学部となったと感慨深い思いです。

現在、卒業生の中には仕事や商売で行き詰まり、またご病気で苦しみ、ご家族との別れに悲しみ、災害からの復旧にご苦労されているなど、必ずしもハッピーではない困難な状況の方もいらっしゃるかと存じます。どうか早稲田の社学で学んだ日々を思い出し、躓こうと何度でも立ち上がる他学部にはない社学の凄さを、社学魂を持ち続けて下さい。小生が寄稿依頼をお受けしたのもこれが言いたいためです。

辛い時、数え切れない程涙して都の西北を歌ってきた小生です。

皆さんと第二水曜日に早稲田の杜でお会いできればと願っております。

●鈴木　淳さんプロフィール

北海道芦別市生まれ、北海道滝川高等学校卒、田崎醇之助ゼミ（広告論班）、某スキー同好会、早稲田精神昂揚会、など途中退会、早燕会ヤクルトスワローズ応援会。
現在、骨董店経営、千葉県在住、関東の骨董市に出店。
趣味：多趣味の中、特に昭和の暮らし研究
最近読んで感動した本:同期クラスメート伊東潤君の「義烈千秋　天狗党西へ」
見て感動した映画：高倉健主演「遥かなる山の呼び声」

新社会人です！

森下　俊
2016年卒

大学時代に得た縁を大切にして

●新入社員としての苦労と喜びを満喫

私は早稲田大学社会科学部を2016年に卒業し、現在は食品メーカーの原料部で働いています。私の会社では、海外から原料を船で運び国内で処理をしているのですが、原料を運ぶ船のスケジュール管理が私の主な担当内容になります。

さて、３月に大学を卒業、４月に入社をして早いものでもう４カ月が経ちました。部署の方々は皆さん優しく、仕事で分からないことがあれば丁寧に教えてくださいますので、何とか日々の仕事に取り組めています。

しかしながら、そのような環境の中でもまだまだ大変なことがあります。

その一例として挙げられるものに、職場で使う用語の問題があります。会社にはそれぞれ社内・部署内用語がありますが、まずこれを覚えるまで一苦労でした。

加えて私が所属している部署では、海洋用語や原料相場の用語など、これまでの人生では全く触れたことのない専門用語を必要とするので、配属直後は先輩・上司の方々が何を仰っているのか、理解することも聞き取ることも最初は困難に感じられ、不安になったことが記憶に新しいです。

また、社外の取引先の方々と仕事をする時に一番の難しさを感じています。

取引相手は当然のことながら私よりも仕事歴が長く、専門性が高いです。社内では新入社員ですのである程度は許容していただけますが、社外相手だと新入社員であろうと対等に仕事をこなさなければなりませんし、対応が遅いとトラブルが発生・深刻化してします。

会社同期会

このようにまだまだ仕事は分からないことも多く、社外の方々と対等に会話をするには知識が不十分ですが、仕事がうまくいった時は大きな達成感を得られるので、新入社員らしく失敗を恐れず取り組んでいきたいと思います。

●趣味の料理や同期との親睦でリフレッシュを

とは言うものの、新社会人となり慣れないことも多く悩みも尽きませんので、その分私生活の時間も大切にし、これまで以上に楽しむようになりました。

例えば、私は学生時代から料理が趣味ですので、休日には好きなものを作り趣味の時間を充実させるとともに、不健康にならないように気を付けています。

また月並みではありますが、友人たちと過ごす時間も気分転換となっています。会社の同期は仲が良く、仕事終わりに集まり、飲み会やカラオケなどに行きリフレッシュしたり、慣れない仕事の悩みなどを共有したりします。同期同士は同じ悩みや疑問を抱えていることも多いので、仕事への

フレッシュマンレポート

大学同期、長野県旅行①右端筆者

大学同期、長野県旅行②

不安も解消されやすく、貴重な時間となっています。

年次が上がるにつれ集まるのが難しくなっていくと思いますので、同期同士が集まりやすい今の時期を存分に満喫したいと思います。

●大学時代の友人を大切に、日々前向きな姿勢で

会社の同期に加え、中学・高校・大学時代の友人と遊ぶことも息抜きとなり、仕事への活力となっています。

同期とは仕事の悩みを共有したり解消したりする一方、大学時代の同期と遊ぶときはメリハリをつける意味でも仕事のことは何も考えず、思い切り遊ぶことにしています。

先日は大学時代の同期と長野県に一泊二日の旅行に行ってきました。旧知の仲である友人たちとは何一つ気兼ねすることなく接することができ、爽快な気分で休日を過ごすことができています。

このように思える友人たちは得難い存在だと思うので、これからもこの縁を大切にしたいと思います。

社会人になってから、毎日が目まぐるしく過ぎました。日々新しいことが起こり、大変な思いもしていますが、その分充実感がありますし、私生活も今まで以上に楽しいと感じることができています。

これから社会人として過ごす中でさらなる困難が待ち受けているとは思いますが、いつも前向きな気持ちは忘れず頑張ります。

●森下　俊さんプロフィール

出身地：静岡県
ゼミナール：経済と環境の実証分析（鷲津先生）
卒業年：2016 年
趣味：料理
最近感動した出来事：日本一の星空を謳う長野県阿智村で見た夜空

「社会科学部稲門会」入会のご案内

社学稲門会では入会受付を常時行っております。社学稲門会ホームページの会員入会受付フォームにて入会手続きをお願い申し上げます。個人情報は厳正に管理いたします。入会手続きと同時に会費の納入をお願い申し上げます。

会費：年間 3,000 円、別途、任意で本会への寄付金一口 1,000 円（二口以上も可）を承ります。

ご寄付頂いた会員のご芳名を会報等に掲載いたします。匿名希望の方は「匿名希望」とご記名下さい。

会費納入方法：銀行振込

三井住友銀行　新宿通支店 (661)　普通口座 9218220　口座名：早稲田大学社学二水会　代表　阿川　功
みずほ銀行　新橋中央支店　普通口座　2231241　社会科学部稲門会
ゆうちょ銀行　記号 10120　番号 73833861　社会科学部稲門会
（振込時記入例：早稲田桜子　会費と寄付　匿名希望）

新社会人です！

三浦　誉生
2016年卒

どこでも存在する早稲田のつながり

●故郷・福岡の金融機関で日々格闘中

2016年卒の三浦です。はじめに、社会科学部50周年まことにおめでとうございます。その記念すべき年に卒業でき、とてもうれしく思います。

現在は故郷である福岡の金融機関にて働きながら社会人生活を送っています。

福岡に帰ってきて、やはりこの街はいいところだと実感しました。ごはんも安くておいしく、コンパクトな街なので終電や終バスを逃してもタクシーで楽々帰ることができます。そのせいか、夜遅くまで友人たちと飲み歩いていることもしばしばですが……。

おかげさまで、仕事にもなんとかついていけています。当初一番心配していた早起きの生活も、今では難なくできるようになりました。毎日新しい業務に出会い、日々格闘です。

●学生時代は学園祭の運営とアルバイトに奮闘

私は福岡で生まれ育ちました。県立高校を卒業後、2012年に早稲田大学社会科学部に入学。

小学校から高校までは野球一筋で、大学では学園祭の運営とアルバイトに打ち込みました。学園祭の運営には3年間携わり、主に渉外担当として協賛金や支援金を集めていました。

アルバイトではテレビ局で4年間、報道番組の制作に携わりました。それぞれ苦難の連続でした。企業に電話でアポを取ろうとしてもなかなか掛け合ってもらえなかったり、下っ端としてテレビ局の中を走り回ったりと、きつい思い出はたくさんあります。

ただ、この二つが今の仕事の基礎につながっているような気がします。お客様に電話をかけるときも、雑用をふられるときも、「学生時代もやったなあ」と思うことが多々あります。もちろん、学生時代とは責任の大きさは違いますが…。

●社学稲門会で父の同級生にお会いして…

実を言いますと、本命は商学部で社学は第一志望ではありませんでした。ただ、卒業して思うのは、社学で4年間よかったということです。

なぜなら、それは世代関係なくつながることができる学部は、社学しかないと思ったからです。そしてその所以が社会科学部稲門会にあります。

私が社会科学部稲門会とつながりを持った発端は、当時所属していた学園祭の運営スタッフの活動がきっかけでした。大学1年の冬、学園祭の開催報告のお礼ということで、社学稲門会を訪問しました。

いざ訪問すると、なんと偶然父の大学時代の同級生とお会いすることができたのです。父も早稲田の校友ですが、まさかこの場所で父の友人にお会いするとは思ってもおらず、感激したことを今でもよく覚えています。

このことがきっかけとなり、何度か個人的に稲門会の会合に足を運ぶようになりました。稲門会の皆様には大変お世話になりました。

普段の学生生活では聞けないような話をよくしていただけました。昔の早稲田の様子、社会に出るうえで大切なことなどを話していただき、就職活動の相談までさせていただきました。

人生の大先輩と数多くかかわることができ、たくさんの愛情あるメッセージをいただけたのは本

フレッシュマンレポート

博多の山笠

卒業記念写真、後列中央筆者

当に幸運なことでした。

●ひとつのことに一生懸命に取り組んでください

だからこそ、私も在学中の皆さんに一つだけアドバイスさせてください。それは「どんなことでもいいからひとつ一生懸命に取り組む」ということです。耳にタコができるくらい聞いたことがあるかとは思いますが、就職活動の為だけではなく学生生活を充実させるためにも、私はやはりこれが一番大切なことだと考えます。

運動でもサークルでもバイトでも、何でも構いません。ある一つのことに対して考えてやり抜いた経験、その際にかかわる友人は、間違いなく学生生活の宝です。

卒業してまだ少ししかたっていない私でもそう感じます。恐らく一度しかない学生生活ですので、みなさんそれぞれ有意義に過ごしてほしいです。

早稲田大学は、本当に不思議な大学だと思います。在学中はもちろん、福岡に戻ってきても、同じ早稲田卒というだけで心が安らぎ、親しくなれます。

早稲田のつながりは、世代関係なく、どこでも存在するのだと最近改めて実感しています。そのような早稲田の輪がどこまでも大きくなるよう、また社会科学部がこれからもっと大きな存在になるように祈念するとともに、私自身も一校友として精進してまいります。

「社会科学部稲門会」会費納入のお願い

入会手続きと同時に会費の納入をお願い申し上げます。

会費：年間 3,000 円

別途、任意で本会への寄付金一口 1,000 円（二口以上の可）を承ります。

ご寄付いただいた会員のご芳名を会報等に掲載いたします。匿名希望の方は匿名希望とご明記ください。

会費納入方法（振込先）

みずほ銀行　新橋中央支店　普通口座 2231241　口座名　社会科学部稲門会

ゆうちょ銀行　記号 10120　番号 73833861　社会科学部稲門会

三井住友銀行　新宿通支店　普通口座 9218220　口座名　早稲田大学社学二水会　代表　阿川功

（振込時記入例：早稲田桜子　会費と寄付　匿名希望など）

社会科学部創設50周年

「繋がる奨学金募金」のお願い

社会科学部は 2016 年（平成 28 年）に学部創設 50 周年を迎えました。
この間、社会科学部が大きく成長したことは、皆様ご承知のとおりです。

社会科学部稲門会も、学部稲門会として、会則、組織整備を行い従来の「卒業生奨学基金への募金活動」「合同クラス会の開催」を主とした活動から、活動範囲を拡充し、学部との更なる連携強化や在学生との交流を深め、校友会ともパートナーシップを構築し、名実ともに学部稲門会に相応した活動を展開しています。

その新たなるステップアップの最大のステージが「学部創設 50 周年記行事」です。
早稲田大学内はもとより、更には、社会に対して、社会科学部並びに社会科学部稲門会の存在と意義を広くアピールする最大の機会と捉えて取り組んでいます。
多様化するニーズを捉え、学生、卒業生、教職員と共に考え、共に創り、共に推進していく三位一体となった活動を行っています。

社会科学部半世紀の歴史を振り返り、設置理念である「社会緒科学の総合的、学際的な教育の実践」の更なる発展を目指す 50 周年記念行事を支援すると共に、社会科学部稲門会の基幹である「卒業生奨学基金」を 2016 年 3 月末現在 6,800 万円から 2016 年 10 月の HCD 当日開催される「学部創設 50 周年記念式典」までに、皆様のご協力、ご支援で、奨学基金 8,000 万円の達成をしたいと願っております。
奨学基金 8,000 万円が達成できれば、その年運用利率 2%で、年間 160 万円（40 万円 ×4 名）の安定的奨学金の確保ができます。
また、その後増えていく奨学基金運用金の使い道を、未来に向けて、学生にとって勉学に励みとなるような、学術・文化・スポーツ活動の支援やインセンティブの一部として活用できる奨学基金環境を学部に提案していくこともできます。

皆様におかれましては、すでに本奨学金基金にご理解をいただき、過去、奨学基金へご寄付を賜っている方も、もし状況が許すようでしたら、重ねてのご協力、ご支援をいただければ幸いです。募金金額の多寡は問いません。「社会科学部卒業生奨学基金」活動に賛同、今後も社会科学部をサポートしていくという「思い」をお願い致します。

学部創設 50 周年を皆様と祝うとともに、その成果発表と奨学金贈呈を 50 周年式典で行いたいと思っております。2016 年（平成 28 年）10 月に井深記念ホールで開催される学部創設 50 周年記念式典には全国の卒業生の参加をお願いします。「三位相互の絆」を深め、動員、成果を最大化し、奨学基金 8,000 万円の達成をしたいと切に願っております。

「楽しくなければ社学稲門会ではない」、そんな未来志向の社会科学部稲門会を目指して、社会科学部創設 50 周年記念行事の成功に向けて皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

2016 年 9 月吉日

社会科学部稲門会・50周年記念実行委員会

社会科学部稲門会・奨学金委員会

早稲田大学社会科学部卒業生奨学基金の詳細

【趣旨と内容】

「社会科学部卒業生奨学基金」は、経済的支援を必要としていて、かつ向学心に燃えている後輩に対して、社会科学部を巣立ったOB・OG自らの手で、「支援」していこうという趣旨で、平成6年の「ホームカミングデー」に招待された社会科学部第1期生有志により設立されました。

以降、「ホームカミングデー」を迎えた代々の有志によって募金活動（同期生への呼びかけ）が引き継がれ、現在に至っています。募金は毎年、大学に寄付され、募金総額が1700万円を超えた平成10年より、利子運用による奨学金の給付がスタートしています。

【募金総額】 平成28年3月末現在

68,620,927円（運用利息を含む）

【寄付件数】

1,799件

【奨学生】

現在までの奨学生は46名

【給付対象】

・早稲田大学社会科学部に在学する学生

・奨学金の給付を必要とする在学生の中から、大学規定に基づき社会科学部が選考して決定

【支給金額】

年間40万円（本年度の給付予定者は4名）

【募金金額】

一口1万円以上ですが、多寡は問いません。

【募金目標】

平成28年10月までに

募金総額8,000万円

【募金口座】

〈銀行〉三井住友銀行　高田馬場支店

普通預金　口座番号　１６８６３８４

社会科学部卒業生奨学基金代表　阿川功

〈郵便振替〉00110-0-579115

社会科学部卒業生奨学基金（用紙在中）

社会科学部卒業生奨学基金のホームページ
http://syagakutomonkai.com

【受付期間】

通年、ホームカミングデー当日。「社会科学部合同クラス会」会場でも受付。なお、同席上で今年度の贈呈式を行う関係上、1次締切を10月8日（土）までに手続きをお願いできれば幸いです。

【早稲田学報芳名掲載】

寄付者は早稲田学報寄付者芳名欄に掲載されます。匿名希望の場合は、お振り込み時に匿名ご希望を明記してください。

【寄付金について】

寄付をして下さった方には、早稲田大学よりお礼状とともに、「領収書」および「特定公益増進法人証明書（写）」が送付されます。これらを添付して確定申告をすると、個人の場合は1万円を超える金額について寄付金控除が受けられます。また、法人の場合、寄付金限度額の範囲で損金算入が認められます。

編 集 後記

夏の暑さも峠を越したかと思いつつも、夜ごと冷たいビールを心待ちにする今日この頃……。

先日、第二文学部出身の後輩、児玉博氏の『堤清二 罪と業　最後の「告白」』という本が大宅壮一賞を受賞し、その記念パーティに参加してきました。堤王国の始祖・父康次郎氏や異母弟義明氏など堤ファミリーと清二氏の確執や因縁を解き明かすインタビュー形式のモノ。単なるレポート調のモノではなく、清二氏と相対した数十時間が行間に凝縮され、表情やしぐさや熱が手に取るようにわかる。30 数年の間に培われたさすがの腕であります。

同じように徒手空拳で人の心を熱くし、または穏やかにする異才な文筆家がわが社学同窓にも多数いるはずなので、いつの日か社学稲門会で祝賀パーティを開催したいものだなあと来るべき日に思いを馳せていました。

さて会場には早稲田関係者が多数参加しており、そのうちの社学出身者７～８名に声をかけてみましたが、この秋の稲門祭にて社学創設 50 周年記念イベントが開催されることはほとんど知られていませんでした。

多少の焦燥感に駆られてこの編集後記をしたためていますが、逆に考えると少しでも多くの人に呼びかけが届けば、すなわちイベントの告知が届けば多くの来場者が期待できるのではないでしょうか。

このたび会報をご覧いただいた方は是非会場に足を運んでいただくと同時に一人でも二人でもお仲間をお連れいただければと切に思います。50 周年を多くの仲間とお祝いしようではありませんか。ちょうど 10 月 22 日～ 23 日あたりは、二十四節気では『霜降』とのこと。乾杯のビールも旨いが、あたたかい日本酒も肴も美味しい季節が始まります。　（伏見英敏）

リオ五輪で日本選手のメダルラッシュが盛り上がる中、帰省時に京都に立ち寄ってみました。まず、駅に着くなり海外からのツーリストの多さに驚かされました。バックパッカーをはじめ子供連れや老夫婦等、どちらかと言うと欧米系の方が多く、いわゆる爆買のアジア系の方が多い東京とは違う様相です。

とりわけ京都は世界的な観光地という事もあり、どこに行っても外国人が分かり易い表示や案内所等のインフラが既に構築できているという印象でした。

そして、いよいよ国際都市 TOKYO もその機能が試される時期が４年後に迫って来ました。最先端の技術を活用したサービスは街中に溢れ返ると思いますが、それ以上に普段のコミュニケーション力が問われる時でもあります。

京都で散策中に、英語で尋ねて当然という顔をした外国人に度々捉りました。日常的な「危機」に直面した結果、あらためて少しは英会話を勉強し、微力ながら「おもてなし」をしてみようかと決意した夏でした。

（米津　昭）

編 集 担 当

川端光明（S54 年卒）藤瀬敏彦（S54 年卒）
米津　昭（S57 年卒）西宮正明（S57 年卒）
伏見英敏（S58 年卒）野口　淳（H13 年卒）
関根健児（H16 年卒）佐藤英明（H18 年卒）
下地彩子（H18 年卒）

発行　「社学稲門会」編集委員会
発行人 早稲田大学社会科学部稲門会
〒 160-0022
東京都新宿区新宿 3-11-6　エクレ新宿 11F
阿川グループ 阿川功 気付
TEL.03（5368）2245 FAX.03（5368）2246
E-mail：info@syagakutomonkai.com
http://syagakutomonkai.com/

早稲田大学「社学稲門会」ホームページ

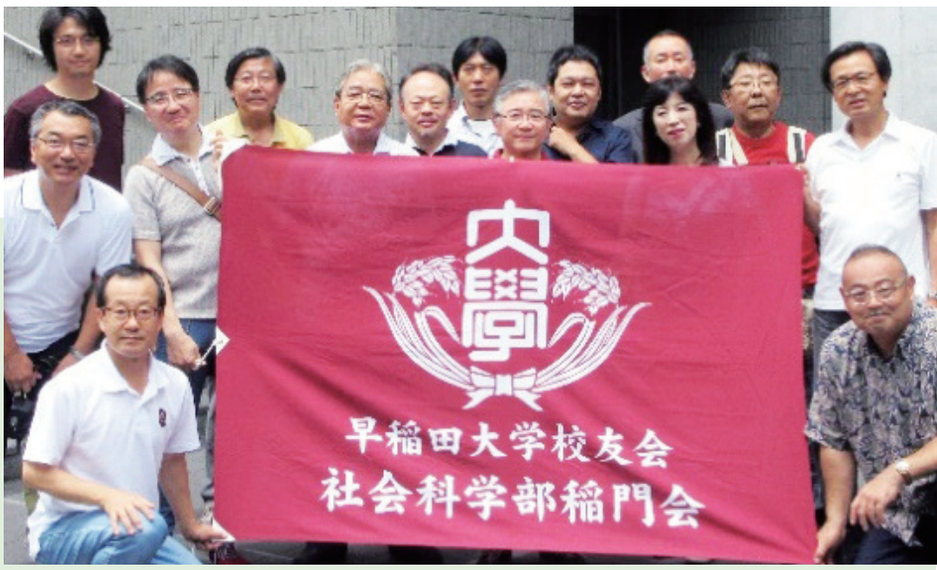
http://syagakutomonkai.com/

このホームページでは、「社会科学部卒業生奨学金」制度の概要、基金の収支、活動の近況などを報告しています。また、この運動を支えている OB・OG の会＝二水会（毎月第２水曜日に打ち合わせ）の活動、親睦の報告なども紹介しています。なお、この「会報」のバックナンバーについても、今後掲載を予定していますので、ご期待いただければと思います。ぜひ、一度アクセスしてみてください。

「Facebook,Twitter」
もご活用ください！

「社会科学部稲門会・第４回総会」

社ガールの会の皆さん



社会科学部稲門会の大旗のもと記念撮影